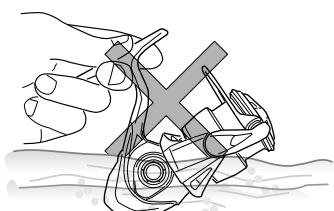




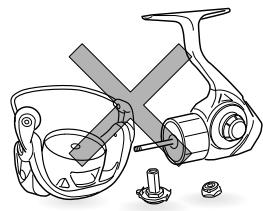
**注意 リール性能が損なわれますのでおやめください！**

市販の防錆潤滑剤のご使用は、結果的にギアやボールベアリング等、内部パーツの耐久性を損なう可能性や異音等の発生の原因になることがあります。ご使用された結果生じる不具合につきまして、弊社は責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

本製品は完全防水ではありません。水に浸けての洗浄はおやめください。

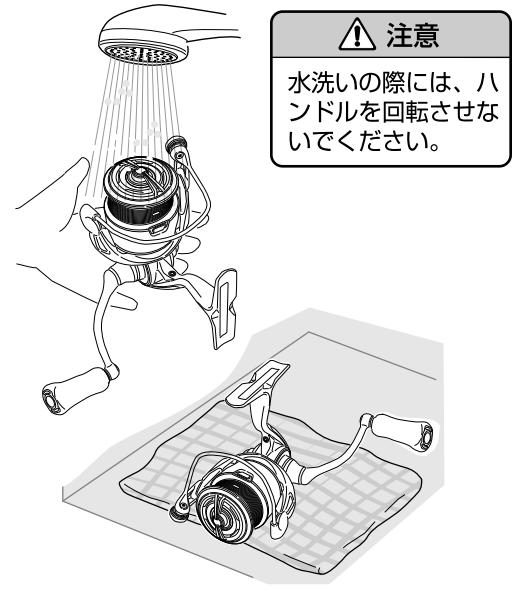


ボディやラインローラーを分解してのメンテナンスはおやめください。



**おすすめの水洗い方法**

ご使用後は外観部の汚れ、塩分をシャワー等で全体にまんべんなく真水をかけ、落してください。そして、よく水を切り陰干してください。尚、水洗いはドラグを締め、ハンドル、ハンドルキャップをつけた状態で行い、イラストのようにドラグノブの方向からのみ、水を掛けるようにしてください。



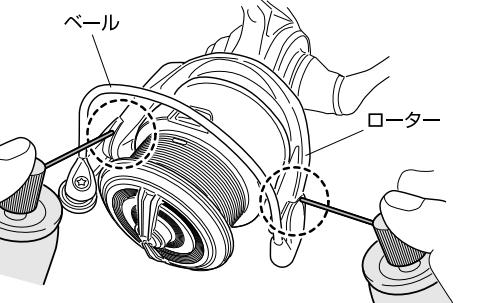
特に海水域でリールを使用した場合、錆や塩分の固着によるトラブルを防止するためにも、以下の要領で釣行後に必ずメンテナンスを行っていただくことが重要です。但し、ボールベアリングやギア等は消耗品であり、長期間のご使用により初期性能は低下する可能性があります。本リールを末永くお使いいただくためにも、年一度はオーバーホールに出されることをお薦めします（有料）。

内部パーツは基本的にメンテナンスの必要はありませんが、ベール等の作動部には水洗い後、下図の要領で注油をお薦め致します。

※推奨グリス：ダイワ純正リールガードグリス  
【注油箇所】

1) ベール周り

図の様に、ベールの付根とローターとの隙間にダイワリールガードグリスを両側共注油してください。



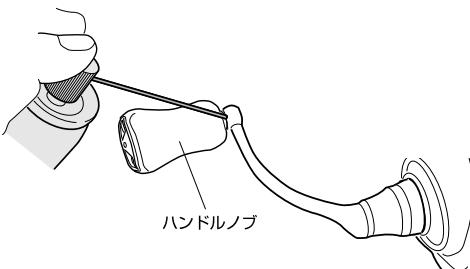
2) ラインローラー部

本機種のラインローラーにはダイワリールガードグリスを使用しています。純正のグリス以外は、注油しないでください。純正のグリスを注油する場合は、図の様にラインローラーとアームレバーの隙間に注油してください。また、グリスを付け過ぎると、ハンドル回転時、グリスが飛び散り、服に掛かるおそれがありますので十分ご注意ください。ラインローラースクリューを取り外すことは、部品の紛失の他スクリューが緩み易くなり、釣行時、ラインローラーが外れてしまう可能性がありますのでお控えください。



4) ハンドルノブへの注油

図のように、ハンドルノブへ注油します。以上の注油は必ずしも毎回釣行毎に行う必要はありません（数釣行に1度程度で十分です）。※グリス・オイルの付け過ぎは逆に本来の性能を損なう可能性がございます。ご注意ください。



※ギア部などリールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、性能を損なう可能性があります。おやめください。

※万が一、水没させてしまった場合は、水洗いを行ない、水を完全に抜いてください。但し、内部に残った水分により不具合が発生する可能性がありますので、販売店を通じて、速やかに（株）スポーツライフプラネットに修理としてお預けください。

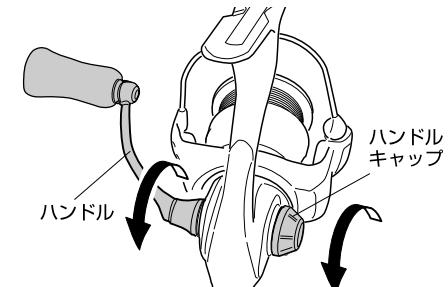
**●ハンドル左右切換方法**

ハンドルはスクリュー式の着脱になっています。使用中に緩み、落下しない程度にきつく締めてください。（締付け目安：ハンドルノブに加える力5～6kg）また過剰に締付けると、ギアが破損し回転性能が低下することがありますのでご注意ください。※製品出荷時はハンドルは左仕様になっております。

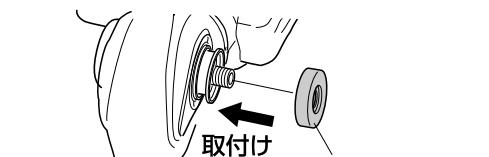
<製品出荷時>

1 ①ハンドルを手で右（時計回り）に回して外します。

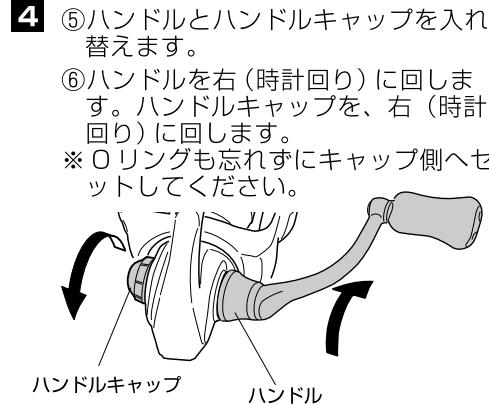
②ハンドルキャップを、左（反時計回り）に回して外します。



3 ④新しく取り付けるハンドル側へ防水パッキンを移動し取り付けます。

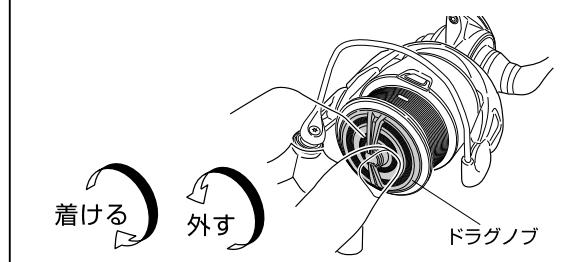


⑤ハンドルとハンドルキャップを入れ替えます。  
⑥ハンドルを右（時計回り）に回します。ハンドルキャップを、右（時計回り）に回します。  
※Oリングも忘れずにキャップ側へセットしてください。



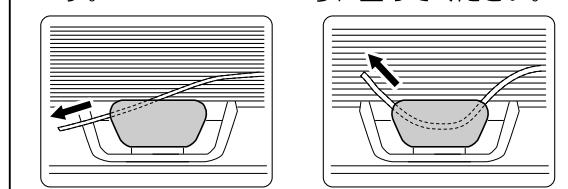
**●スプール脱着方法**

※ドラグノブを反時計回りに回せば、外れます。  
※スプールを着ける際はドラグノブを時計回りに回してください。



**●パーフェクトラインストッパー**

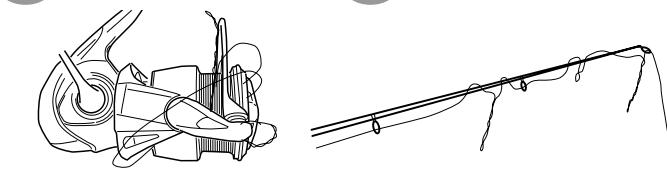
道糸（細糸）を止める場合、下図のとおり左上角に掛け部をリール本体の取り付け側へ向けてください。  
ショックリーダー（太糸）を止める場合、下図のとおり右側から左側へ貫通するよう止めてください。



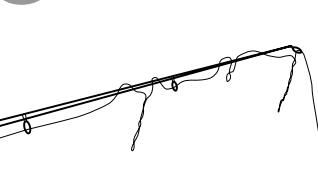
**ツイストバスター（TB）**

スピニングリールをご使用中に、よくあるライントラブルとしてリール各部・ロッドのガイドへの糸がらみ等があります。その原因には、もちろんキャスト時のミスや風の影響などもありますが、実は糸のヨレが大きな影響を与えていたのです。

例 リール各部への糸がらみ



例 ロッドの穂先への糸がらみ



**ご注意**

ツイストバスターによる糸ヨレの解消率は、釣種・釣法・糸の素材・形状などにより多少異なります。

1.以下のように糸ヨレがあまり発生しない状況下では、今までの製品との性能差がはっきりと出ないことがあります。

- ①糸のテンションが低い場合
- ②キャスティング距離が短い場合

2.以下の場合は、ツイストバスターの性能が十分に発揮されないことがあります。

- ①ドラグを多用した場合
- ②竿の元ガイドとの距離が極端に短い場合
- ③PEラインをご使用の場合

※ただし、PEラインはその特性（編み糸構造）上、糸ヨレが発生してもトラブルにはなりにくくなっています。

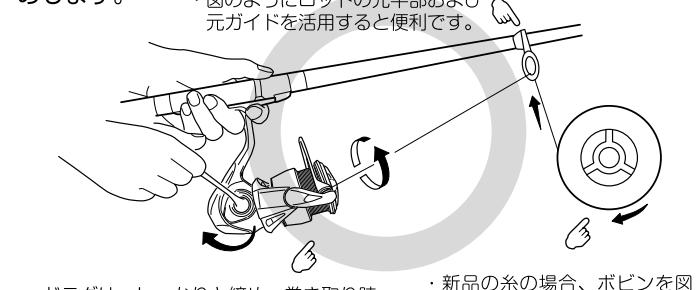
**Long Cast-ABS**

スピニングリールをご使用中に、よくあるライントラブルとしてバックラッシュがあります。ロングキャストABSは、そのトラブルを大幅に解消し、従来比、約5%もの飛距離アップに成功しました。

●バックラッシュ（ゴップ）の解消率は、釣種・糸の状態やキャスト時のミスや風の影響などにより多少異なります。

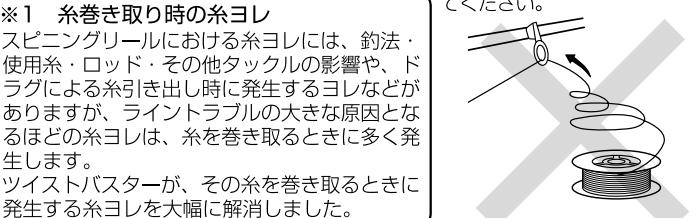
ツイストバスター（TB）は、糸巻き取り時のヨレ※1を大幅に解消しました。  
▲ご使用方法はカンタン。基本的には、これまでのスピニングリールと同じです。ただし、お客様が糸を巻かれるときには、最初からツイストバスターの性能を十分に発揮させるため、以下の方法をおすすめします。

新品の糸を巻かれる場合には、下図のように巻くことをお薦めします。



・ドラグは、しっかりと締め、巻き取り時に滑らないようにしてください。

・新品の糸の場合、ボビンを図のようにタテにして、適度のテンションを与えながら巻いてください。



※1 糸巻き取り時の糸ヨレ  
スピニングリールにおける糸ヨレには、釣法・使用糸・ロッド・その他タックルの影響や、ドラグによる糸引き出し時に発生するヨレなどがありますが、ライントラブルの大きな原因となるほどの糸ヨレは、糸を巻き取るときに多く発生します。  
・ツイストバスターが、その糸を巻き取るときに発生する糸ヨレを大幅に解消しました。

※ツイストバスターの性能を最大限発揮するために、アームレバーを若干傾けてあります。

※ダイワはツイストバスターシステムの実施技術およびその周辺について、日本、米国、ヨーロッパ、その他の国々に対し特許と意匠を多数出願しております。

**ご注意**

以下のような場合は、アンチバックラッシュシステムの性能が十分に発揮されないことがあります。

- 1.糸を弱いテンションで巻いた場合
- 2.糸を標準巻糸量より多く巻いた場合

